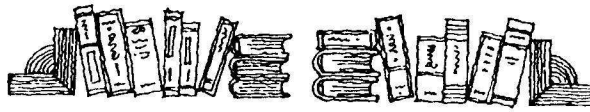


国語国文学会だより



No. 21

日本文学科卒業生の会

1999. 8

国語国文学会

春の総会・研究発表会報告

平成十一年度春の総会・研究発表会を五月二十七日(木)、香雪館四〇一号室で開催しました。

◆第一部 総会 議事 他

- (1) 国語国文学会会長挨拶 源 五郎先生
- (2) 上村悦子賞授与

- (3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介 院博士課程後期三年次 後藤利枝

(学生の方・卒業生の会)

- (4) 平成十年度活動・決算報告

- (5) 平成十一年度活動計画案・予算案・監査選出

- (4)(5)については、学生、卒業生より各々報告説明をし、各案件とも審議後承認

- (6) 自主ゼミ発足(学生の会、卒業生の会) 承認

◆第二部 報告

報告

- ・「劉向『列女伝』にみる女性観」

漢文自主ゼミ 壬生 里巳

- ・「皇女研究会・今後の展開」卒業生の会

柳澤理恵子(新37・院27回生)

交換留学生挨拶(四名)

研究発表

- ・「棋津源氏と弓箭譚——鶴退治説話の背景にあるもの」 須藤真紀(新46回生)

◆新旧交代の会

秋季大会・公開講演会のご案内

▼日時 平成十一年十二月四日(土) 一時～

作家 高橋 源一郎氏

一九五一年生まれ。一九八二「さようなら、ギャングたち」で群像新人長編小説賞優秀賞を受賞。一九八八「優雅で感傷的な日本野球」で第一回三島由紀夫賞受賞。文学評論、競馬評論、エッセイ翻訳など多方面で活躍。

日本女子大学教授 倉田 宏子氏

懇親会終了後、生協食堂ウイミンにて倉田先生の演題、懇親会詳細は葉書でお知らせします。

万葉講座

日本女子大学百周年記念事業

前日本女子大学学長 青木生子先生

- ・第一回 十月十四日(木)

叙情詩の誕生——万葉の魅力

- ・第二回 十一月十一日(木)

古代史を生きた額田王

- ・第三回 十二月九日(木)

愛の詩人 柿本人麻呂

- ◇時間 午後一時三十分～三時三十分

- ◇場所 桜楓二号館 三階

- ◇会費 毎回二千元(資料代含む)

- ◇申し込み 桜楓会 ☎03-3942-6091

FAX 03-3941-7042

*純益は先生のご厚意により全額母校に寄付されます。

◆総会議事より

平成十年度（卒業生の会）活動報告

(1) 総務

・委員会、常任委員会の招集

・春季総会・研究発表会開催 五月二十八日(木)

・はがき通信 五月(春の総会案内)

・はがき通信 十一月(秋季大会出欠、住所確認、ひとこと)

・企画

(2) 企画

・自主ゼミの活動(四ゼミ)

・秋季大会の開催十一月二十一日(土)

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

発表

「大和物語一五三段の贈答について」

本学非常勤講師・院26回 成島知子氏

「三島由紀夫の初期短編について」

茨城女子短大助教授・新28回 小林和子氏

「外来語省略形の語構成―音にみられる「同化」についての考察―」

講演

本学助手・新44回 佐野江美氏

講演

「近代日本語の録音資料あれこれ」

日本女子大学教授 清水康行氏

「私は何を書いてきたか」

二兎社 劇作家・演出家 永井 愛氏

(3) 会計

・会費納入の確認

・収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

・「国語国文学会だより」十九号(春の号八月)、二十号(秋の号十一月)の発行

平成十一年度（卒業生の会）活動計画案

(1) 総務

・春季総会・研究発表会の開催 五月二十七日(木)

・はがき通信 五月、十一月

(2) 企画

・自主ゼミの設立

・秋季大会の開催 十一月

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

・文学散歩の実施

・談話会の企画・実施

(3) 会計

・会費納入への協力依頼

・活動充実のための備品の整備・購入

(4) 編集

・「国語国文学会だより」の発行

夏の号(二二号)・八月 冬(二二二号)・一月

平成十一年度常任委員

総務 南美枝子(旧31)・綾野道江(新5)

企画 高野晴代(院14)・藤木直美(院31)

企画 児玉久美子(旧46)・立川和子(新1)

菅野富邇子(新11)・成島知子(院26)

土橋ユリヨ(新31)・平山静(新34)

津田英子(新6)・杉田まゆ子(院29)

編集 實藤恒子(新7)・高橋順子(院18)

中田和子(院27)

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成10年度決算報告(1999.4.30日現在)			
【収入の部】		(円)	
項目	予算	決算	
前年度繰越金	769,710	769,710	
会費	550,000	910,434	
寄付	0	6,000	
利子	0	1,435	
収入合計	1,319,710	1,687,579	
【支出の部】			
通信費	300,000	182,427	
文具費	35,000	346	
コピー代	15,000	4,520	
会報印刷費	120,000	145,080	
名簿作成費	250,000	0	
委員会活動費			
・委員会費	20,000	6,105	
・交通費	40,000	36,000	
・行事費	10,000	0	
ゼミ費	40,000	30,000	
講演会費(講演料)	60,000	60,000	
大会諸経費	30,000	7,568	
設立準備金(9回目)	100,000	100,000	
慶弔費	10,000	15,750	
予備費	289,710	0	
支出合計	1,319,710	587,796	
次年度繰越金 ￥1,099,783			
上記の通り決算報告致します。			
会計	津田英子		
監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。			
監査	岩野圭子		荻窪昭子
			

平成十一年度研究サークル

*平安文学談話会(平安文学に関する研究)

金曜日 午後四時半(年十回)

日本文学料研究室

・高野晴代 〇三(三三七〇) 六八〇六

*皇女研究会(皇女総覧平安朝篇の作成)

毎月第二土曜日 午前十時半

大学図書館共同研究室

・柳澤理恵子 〇四五(八四二) 六五二五

楠木方

*古代中世文化論(中世の芸術論)

毎月第四月曜日 午後一時半

日本文学料資料室四二六

*中島斌雄先生の俳句を読みながら

(お知らせとお願い)
*振替用紙を同封いたしました。本年度会費千円
の納入をお願い申し上げます。

毎月第三土曜日午後二時

中島斌雄先生宅

・綾野道江 〇四四(九六六) 五四二五

ゼミに参加ご希望の方は、随時各ゼミ代表者にお申し込みください。

また、ゼミ設立希望の方は五名の同意者を募った上、企画係までお申し込みください。春の総会で設立が認められますと、活動費が会より助成(年一万円)され、資料室四二六号の使用が、原則的に研究室より許可されます。

日本女子大学国語国文学会卒業生の会 平成11年度予算案 (1999.5.27)

【収入の部】

前年度繰越金	1,099,783
会費	550,000

収入合計	1,649,783
------	-----------

【支出の部】

通信費	350,000
文具費	30,000
コピー代	15,000
会報印刷費	140,000
名簿作成費	300,000
委員会活動費	
・委員会費	20,000
・交通費	40,000
・行事費	10,000
ゼミ費	30,000
講演会費(講演料)	60,000
大会諸経費	30,000
設立準備金(10回目)	120,000
慶弔費	10,000
パソコン完備費用	
・ソフト	50,000
・プリンター	80,000
・入力雑費	20,000
予備費	344,783

支出合計	1,649,783
------	-----------

*なお、本年度より会費を三年間滞納された方には、総会、大会案内、「国語国文学会だより」の送付を中止させていただきます。ご了承ください。

*住所変更の節は、ご連絡ください。



*研究発表会 発表者募集

日時・十二月四日(土)

午前十時〜十二時

- ・発表時間 三十分、質疑十分
- ・応募資格 本学国語国文学会会員
- ・応募方法 四〇〇字以内に発表要旨をまとめ論題とともに申し込む
- ・応募先 〒一一二〇一五 東京都文京区目白台二一八一 日本女子大学日本文学料研究室内「国語国文学会秋季大会研究発表者募集係」

・締切り 十月四日(月)

・選考方法 国語国文学会において選考、結果は後日、個別に連絡する。
日本女子大学 国語国文学会

ご希望の方は、右記によりご応募ください。

研究室だより

○佐久間まゆみ先生が、平成十一年三月をもって早稲田大学に転出されました。平成二年より九年間、日本語教育講座の開設と発展に多くの寄与をされました。先生のこれからの研究のご進捗を願って感謝に代えたいと思います。

○佐久間先生のご後任として、日本語教育学の専攻の石田敏子先生を、筑波大学からお迎えしました。

○高橋智子先生と田辺和子先生が、それぞれ専任講師から助教授に昇任されました。

○昨年度、お茶の水女子大学を中心に国内研修に出られていた倉田宏子先生が、ご帰任になりました。

○今年度は、後藤祥子先生が実践女子大学を中心とした、国内研修に出られています。

○ほかの先生方は昨年と変わりません。

小川靖彦先生（上代文学）

麻原美子先生（中世文学）

浅野三平先生（近世文学）

倉田宏子先生（近代文学）

高橋智子先生（近代文学）

清水康行先生（日本語学）

藤原浩史先生（日本語学）

石田敏子先生（日本語教育学）

谷中信一先生（中国思想史）

田辺和子先生（外国人留学生特別科目）

田中功先生（図書館情報学）

源五郎（近代文学）の十二名です。

○助手さんは、白石美鈴さん、溝部優美子さん、伊藤江美さん（ご結婚で旧姓の佐野さんから変わりました）、非常勤の八木京子さんで、昨年と変わります。

○国語国文学会の担当は、谷中先生、小川先生、伊藤さんです。（日本文学科科長 源 記す）

▼お知らせ

児童文学者・安房直子氏（新15）の世界を語り継ぐ「花豆の会」が誕生しました。ご命日の二月二十五日近くに会合を持つこと、「花豆通信」を発行することが活動の中心です。連絡先は「花豆の会事務局」へ（03-3973-6606）なお、成瀬記念館にて企画展がございます。

「安房直子・メルヘンの世界」

会 期 十月一日（金）～十二月十八日（土）

開館日 火・金 九時三十分～十六時三十分

土 九時三十分～十二時

但し、十月二十三日以降の土曜日は十六時三十分まで、十月二十四日（日）は開館

▼会員の刊行著作

渡辺澄子（新3）著

『女々しい漱石、雄々しい隅外』

世界思想社 九六年一月 二五〇〇円

『日本近代女性文学論 闇を拓く』 世界思想社

九八年二月 二八〇〇円

『女性作家評伝シリーズ2 与謝野晶子』新典社

九八年十月 一六〇〇円

▼文学散歩「三四郎」を中心

に本郷界隈を歩く
漱石研究家（交渉中）のご案内で、「三四郎」を中心に本郷界隈の散策を企画しました。三四郎池、東大博物館など構内を散策したのち、一葉、啄木ゆかりの地、「立原道造記念館」（企画展 物語「春のころつき」を訪ねたいと思います）

日 時 十月三十日（土）午前十時三十分

集合場所 東京大学赤門前

所要時間 約五時間

費 用 昼食・入館料など約二千元

申し込み・連絡先 新妻佳珠子

0422・44・4691

十月二十四～二十八日 夜間にお電話を

二四歳で夭折した立原道造（詩人・建築家一九一四～一九三九）は、その短い生涯にも関わらず、詩・短歌・俳句・物語・書簡・パステル画・建築設計図・スケッチ等を数多く残しました。これらの多様な作品からは、独自の世界を作り上げようとする強靱な精神に支えられた感性と深い思索をうかがうことができます。

立原道造記念館は、一九九七年三月二十九日、立原が旧制一高以来の青春時代を過ごした東大弥生門前の所縁の地に、堀多恵子氏を館長に迎え、遺族・友人・愛する人々の後援を受けた鹿野琢見氏の尽力によって開館した私立の記念館です。

（新17 立原道造記念館理事 宮本 則子）

国語国文学会だより

・発行日 一九九九年八月三十一日
・発行者 日本女子大学国語国文学会

卒業生の会